

近年の違法ドラッグ 乱用状況について

平成25年9月5日
あおぞら薬局 蓬萊茂希

本来、くすり・・・とは

- 病気の原因を絶つ
- 症状を改善するために使う

↑これが本来の使い方なのですが・・・

薬物乱用とは

- 医薬品を病気の予防や治療等の医療目的から逸脱して使用する
- 医療目的でない薬物を不正に使用すること

ゲートウェイ・ドラッグ

入門薬物って・・・ どういうこと？

「友達に誘われた」、「カッコいいから」

喫煙・飲酒・違法ドラッグ

低年齢化

モラルの低下

麻薬・覚せい剤に手を出す

- ・ シンナーなどの乱用者のほぼ全員が喫煙（日本の少年鑑別所での調査）
- ・ 喫煙は病気や死亡の原因のうちで、予防可能な原因としては最大のもの

タバコとお酒はなぜ違法なのか

タバコとお酒（アルコール）は他の薬物と違って、20歳以上は禁止されていませんが、

20歳未満は法律により使用が
規制されています。

なぜでしょうか？

違法である理由は

脳の神経ネットワークは20歳でようやく完成
（脳の成長は20歳までかかる）



タバコとお酒（アルコール）を未成年が使用すると、脳細胞の発達が妨げられてしまうため
肝臓や他の内臓も未成年はまだ発達過程なので、成人に比べると、抵抗力が少ないのです

乱用の低年齢化の背景

- 1 薬物乱用の危険性に対する認識の欠如
- 2 薬物乱用への抵抗感の低下
 - (1) 使用方法の簡便化（注射から吸引へ）
 - (2) 薬物名称のファッション化
- 3 薬物の入手の容易化
 - (1) 不良外国人による無差別な密売
 - (2) 携帯電話、インターネットの普及
 - (3) 国内での不正栽培（大麻）

ネット薬物犯罪の特徴

- 年齢層が低い（10代後半～20代が大半）
- パソコン世代の若者が大半
- 被疑者の職種が多種多様
学生、サラリーマン、公務員等
- 客が全国に散在
- 少量・多種の薬物の取引
- 薬物間の物々交換もある

国際的動向

- 世界人口（15-64歳）の5%（2億人）が過去1年間に最低1回は何らかの不正薬物を使用。
- 覚せい剤、MDMA等の乱用は、過去10年間急増してきたが2003年は停滞/減少傾向。
- 大麻栽培量は依然として増加傾向。
- あへん密造量は4000～5000トンで大きな変化はない。
- コカ栽培量は1999年から2003年までに3割減少。2004年は微増

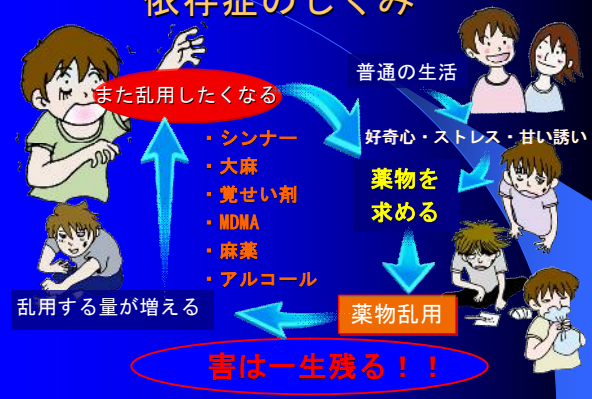
こんなにある！違法薬物



規制薬物の種類

- 覚せい剤：メタンフェタミン、アンフェタミン
- 麻薬：ヘロイン、コカイン、MDMA等
- 向精神薬：精神安定剤等
- 大麻：乾燥大麻、大麻樹脂等
- 有機溶剤：シンナー、トルエン等

依存症のしくみ



薬物乱用による社会的損失

1. 薬物中毒・合併症の増加
2. 犯罪や暴力行為の増加による治安の悪化
3. 犯罪組織・テロ組織の資金源となる

社会全体の悪化

規制法律は・・・？



諸外国

終身刑：香港、米国
死刑：中国、台湾、シンガポール、マレーシア、エジプト、インド

薬物の種類（興奮させる）

- 覚せい剤
- MDMA
- コカイン



薬物の種類（抑制する）

- 麻薬（アヘンなど）
- 精神安定剤など
- シンナー、トルエンなど



薬物の種類（幻覚を見る）

- LSD
- 大麻
- マジックマッシュルーム



覚せい剤の様々なタイプ



無色透明の結晶(アイス)

「シャブ」・「やせ薬」・「S(エス)」・「スピード」



結晶状の覚せい剤(ガンコロ)



錠剤型覚せい剤(ヤーバー)

覚せい剤



注射痕

覚せい剤について

【薬理作用】

中枢神経興奮（強烈な快感、陶酔感）、覚醒、気分高揚、疲労感消失、多幸福感、食欲減退等

【有害作用】

- ・覚せい剤精神病
幻覚、幻聴、妄想、精神錯乱等
- ・フラッシュバック（再燃現象）
薬物中止後、突然現れる精神病症状
- ・覚せい剤中毒による二次的危険
被害妄想による傷害、殺人、交通事故、自傷（自分自身を傷つける）等

覚せい剤による幻覚



覚せい剤について

【薬理作用】

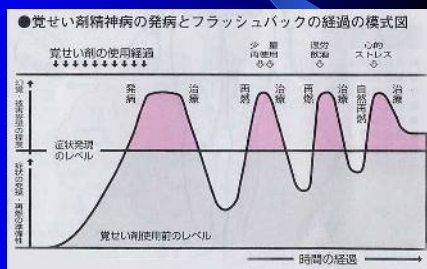
中枢神経興奮（強烈な快感、陶酔感）、覚醒、気分高揚、疲労感消失、多幸福感、食欲減退等

【有害作用】

- ・覚せい剤精神病
幻覚、幻聴、妄想、精神錯乱等
- ・フラッシュバック（再燃現象）
薬物中止後、突然現れる精神病症状
- ・覚せい剤中毒による二次的危険
被害妄想による傷害、殺人、交通事故、自傷（自分自身を傷つける）等

フラッシュバック（再燃現象）

- 乱用をやめても、睡眠不足・過労・ストレス・飲酒などをきっかけに突然、幻覚や妄想等の精神障害の症状が起こること



覚せい剤について

【薬理作用】

中枢神経興奮（強烈な快感、陶酔感）、覚醒、気分高揚、疲労感消失、多幸福感、食欲減退等

【有害作用】

- ・覚せい剤精神病
幻覚、幻聴、妄想、精神錯乱等
- ・フラッシュバック（再燃現象）
薬物中止後、突然現れる精神病症状
- ・覚せい剤中毒による二次的危険
被害妄想による傷害、殺人、交通事故、自傷（自分自身を傷つける）等

覚せい剤精神病の怖さ

覚せい剤精神病の病状の典型は「被害妄想」
自分が殺される！
「殺される前に殺すしかない」と思い込み



無関係の傍らにいる人を殺傷する
通り魔殺人事件にまで発展する

MDMA・LSD

MDMAの錠剤



MDAのカプセル



LSDの紙片



LSDの錠剤



MDMA(錠剤型合成麻薬)



別名:エクスタシー、エックス、バツ、タマ

MDMAの害

- 血圧を極端に上昇させる
- 心臓発作
- 脳卒中等
- 上記の合併症が生じ易くなる
- 薬物精神病



MDMAが与えるダメージ

密造による化学合成の過程で、致命的な副作用を
起こす危険のある物質も含まれる可能性が高い。



錠剤のため、抵抗感がなく、容易に摂取しやすく、
他の薬物との併用をする場合もあり、組み合わせ
によっては、アナフィラキシーショックを起こし、
死に至る可能性もある。

大麻草



大麻草



大麻樹脂



乾燥大麻草

感情が不安定になる
暴力的・挑発的になる
無動機症候群

大麻の身体・精神への影響

免疫力の低下、白血球の減少等による身体への影響

大麻精神病：幻覚・幻聴などの症状が出る。暴力をふるうなど。

知的機能の低下：ものを考えられなくなる。

無動機症候群：何もやる気がしない。

無動機症候群



大麻を注射されたラットの異常行動

大麻乱用者が書いた手紙

人とみんなとあうときはほんとうのほんとうにきらい
 にならなくていいです。はやくあうちにかえりた
 いです。もうこれこれです。ふかふかかえることができ
 ようにとりよくなります。ほんとうにいいです。
 はやくあうちにかえりたです。
 はやくあうちにかえりたです。あやにうたはです。
 たいまやくりほんてむこうほうのにてだしてしま
 のはぼくのじがよわいからです。たくさんはんせいし
 たいまやくりほんてむこうほうのにてだしてしま
 めまやくりほんてむこうほうのにてだしてしま
 ぼくのまのことはよくあつたせよせん。せんせい
 どうぞすいません。ふとふとあつたせよせん。
 ぼくのまのことはよくあつたせよせん。

シンナー

溶媒としてよく使われるけれど・・・？



- トルエン
- キシレン
- メタノール
- イソプロピルアルコール
- その他

劇物

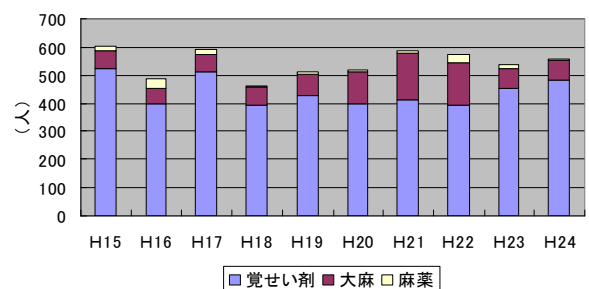


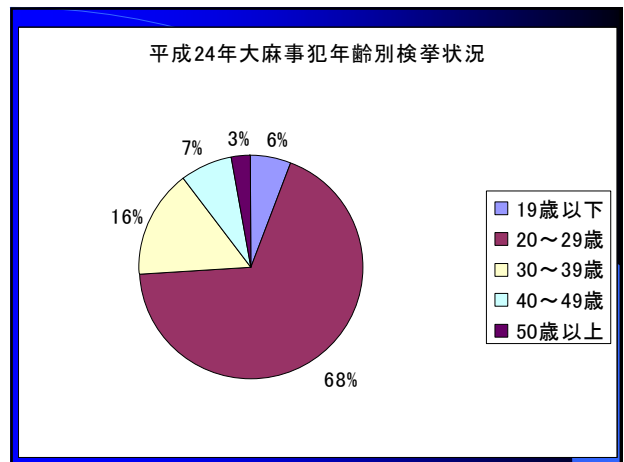
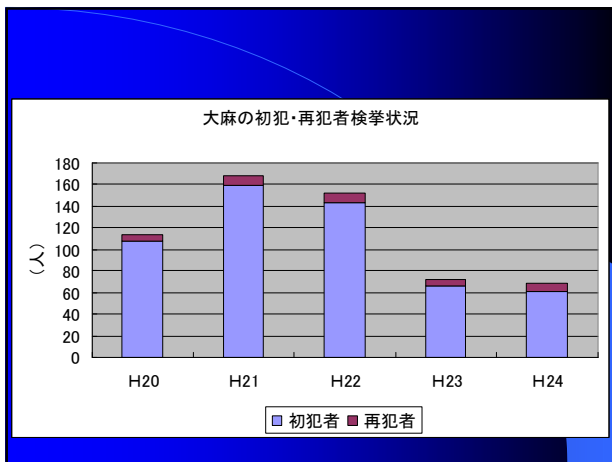
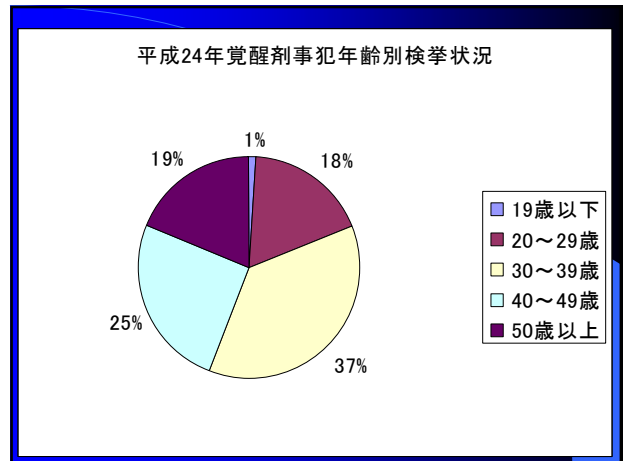
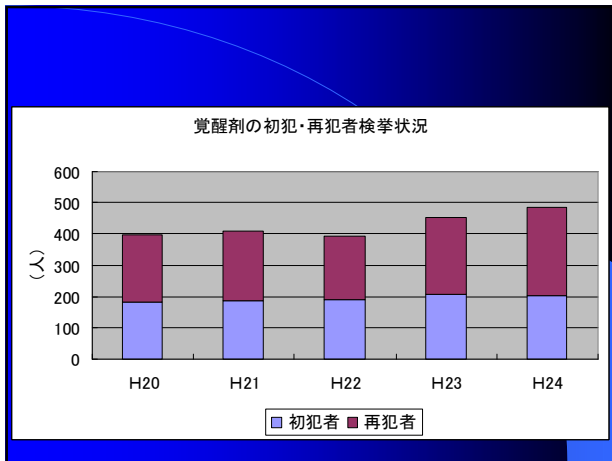
違法ドラッグ

- 麻薬等と同様に多快感・快感等を高めるとして販売されている製品
- 成分が麻薬等に指定されていないことから「合法ドラッグ」「脱法ドラッグ」と称して販売されている
- インターネット等で販売されている



県下における薬物事犯検挙人員






営利目的で大麻330株栽培の男を逮捕／横須賀

県警暴力団対策課と横須賀署は大麻取締法違反（営利目的栽培、所持）の疑いで、横須賀市長沢1丁目の男（44）と同市武1丁目の男（42）の両容疑者を現行犯逮捕した。

逮捕容疑は、2人は、同市建物2階で、営利目的で大麻草約330株を栽培し、乾燥大麻約3・4キロを所持していたとしている。

同署によると、2人は借り上げた工場で鉢植えの大麻草を栽培。部屋からは大麻草の育成に使用したとみられる複数台の加湿器や除草剤などが見つかった。



ハーブ吸引の事故に危険運転致死罪認める判決

読売新聞 6月10日（月）

脱法ハーブを吸ってワゴン車を運転し、愛知県春日井市で高校1年生をはねて死亡させたとして、危険運転致死罪と道路交通法違反（救護義務違反）に問われた会社役員（31）の裁判員裁判で、名古屋地裁は10日、懲役11年（求刑・懲役12年）の判決を言い渡した。

判決では、昨年10月10日午前7時40分頃、脱法ハーブの影響で正常な運転が困難な状態にもかかわらず、ワゴン車を時速70キロで運転。春日井市の市道を自転車で横断していた近くの高校1年生をはね、死亡させた上、救護しなかったとしている。

名古屋地検は、脱法ハーブが運転に与える危険性を認識していたと判断し、より法定刑の重い危険運転致死罪などで起訴した。

【ガスパン遊び】中学生が死亡していた

- カセットコンロ用などのガスを吸引し、酸欠と酩酊の狭間で一種の快楽におぼれる「ガスパン遊び」。主に10代など一部の若者を中心に地味な広がりを見せる行為だが、時に死に至るケースも少なくは無いようだ。
- 昨年11月には都内の男子中学生（14）が上述のガスパン遊びに興じていたところ、ガス吸引による窒息で死亡していたとのことだ。
- 同級生たちの話では幻覚を見たりして楽しかった。やめられなかったと話しているという。

薬物の密輸入事例

